

南高 同窓会会報

発行所
四日市市大字日永字岡山
三重県立四日市南高等学校
同窓会
TEL.059-345-3177
www.4nan.jp/dousou/



会長 早野憲一郎

ご挨拶

皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年8月より粕谷会長の後を受け、大役をお引き受けることになりました早野憲一郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

同窓生の皆さまには、日ごろから母校に対して多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

この地域包括ケアシステムは、高齢者ができる限り住み慣れた地

域で、自分らしく人生の最後まで暮らせることを目的に、地域が一体となって高齢者を支えていくシステムですが、当然のことながら人とのつながりなくしては成立しません。

地域包括ケアシステムに加え、誰もが安心して暮らせる社会を作るためには、本校の教育方針にも掲げられているように①豊かな人間性、②開拓者精神、③人権の尊重、④個性、⑤品性と社会性が重要になってくるのではないのでしょうか。

そんな教育方針の下で高校生活を送った同窓生の皆さまの横のつながりができれば、こんなに心強いことはありません。どこで暮らしていても、同窓生であるという安心感と信頼感は世代を超えて続いていくと信じています。

最後にになりましたが、会員の皆様は今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げますと同時に、南高同窓会のさらなる発展に向けて、ご支援ならびにご協力を願ひ申し上げ、ご挨拶といたします。



学校長 鈴木達哉

ご挨拶

同窓会会員の皆様には、平素より母校のためひとかたならぬご支援、ご協力を賜り、ありがとうございます。あらためまして心より厚くお礼申し上げます。

さて、私は昨年の同窓会会報に「これからの時代は学校の教員だけが生徒を教育するのでは不十分である。保護者や地域の方々、企業・行政・NPOといった多様な価値観を持つ『本気の大人』『ホンモノ』との交流が不可欠だ」と書きました。それを受けて、昨年末では、地域交流として日永地区の「つんつく踊り」や「防災訓練」等への参加、県教育委員会の「高校生サミット」「英語キャンプ」などの企画への参加、四日市市との「あすなろう鉄道」を通じての交流などを行いました。今年度からは本校独自の『ホンモノ体験』を計画しています。

一例をあげますと、「街づくり」をテーマとしてNPOとコラボしてワークショップ、シンポジウム

の開催、「ものづくり」をテーマとして企業研究者を招いてのワークショップとディスカッション、大学のゼミ体験を通じての企業の商品開発、環境をテーマにしてのシンポジウムへの参加などです。

本校の生徒は素晴らしいポテンシャルを持っています。しかし、残念ながら自分で様々な体験をし、失敗を繰り返しながら、それを反省し成長につなげる機会が足りません。もちろん、部活動や学校行事を通じて成長している部分はあります。しかし、社会の変化、求められる人間像の変化に対応するにはもはや高校の中で行う指導だけでは、大学や社会への接続の基礎を築くことさえ十分とは言えません。

一方で、同窓生の皆様にはこの地域のリーダーとして活躍されている方、日本や世界を見据えて活動されている方がたくさんいらっしゃいます。その力をぜひ後輩たちのためにお借りしたいのです。彼らに「ホンモノの価値観」や「彼らの知らない広い海」を見せていただきたいと思います。

現在、同窓生の皆様には2年生への「OB講演会」「卒業生と語る会」など進路指導部の行事を通じてご協力いただいています。また、このような場合は本校卒業生の持つ「開拓者精神」を伝えていただく

場にもなっていると幸いです。

このような場をもっと広げるとともに、生徒たちのさらなる飛躍のためにぜひともお願いしたいことがございます。生徒が関東や関西、地方に進学するにあたって、困った時の相談相手になっていただきたいと思います。また、彼らが就職で地元に戻ってくるときにも同窓会ネットワークの中で相談に乗っていただきたいのです。

大学へ進学するに当たり、知らない土地、知人のいない場所へ行くのは不安が多いです。そのためにも都会や地方へ出ていくのをためらい、自分を成長させる機会を失っているケースもよく見かけます。就職の際に地元へ帰れないことへの不安から遠くに行くのを断念することもあります。そのためにつかくのポテンシャルを伸ばしきれないでいるならば本当に残念なことです。

同窓生の皆様のネットワークで後輩たちが困った時に頼れる場を作っていただければ、生徒たちも安心して「広い海」を見るため、自分を成長させるためのチャレンジが今よりもっとできるのではないかと思います。ぜひとも皆様の大きなご支援をお願いします。

最後に南高同窓会のみますますのご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

OB Lecture
OB講演会

2年生を対象に様々な職業の同窓生による講演会が行われました。

平成28年7月7日

株式会社マイファーム

磯川麻里氏(44期)

C講座では株式会社マイファームでご活躍されている磯川さんのお話をお聞きしました。磯川さんは「自然」「農学」「教育」「海外」をご自身の「軸(Key word)」とされており、「軸」の決め手となった経験を中心にお話して頂きました。

まず「昔なりたかったものは何か。」と生徒たちに問いかけ、ご自身は自然に囲まれた暮らしに憧れたことを軸にして様々な経験をされました。大学の選択、青年海外協力隊として行った先でのウガンダの生活や活動内容などの体験をお話される中で、何事においても意志を持って向き合うことの大切さを生徒たちに語られ、生徒たちも真剣に聞き入っていました。



磯川麻里氏

最後に自分の「軸(Key word)」があれば、迷いながらもいずればその「軸」に近づいていくため、「軸」を持つことが大切であるという熱いメッセージを頂きました。

株式会社Z会

松永瑞穂氏(32期)

大学を目指す高校生なら誰もが知っているZ会で活躍されている先輩をお招きし、南高での生活や受験経験から現在の仕事に至るまでの話をお聞きすることができました。

大学時代や語学留学中、Z会に就職してから、様々な人と出会って刺激を受ける中で、自分を作り上げていかれたという経験談でした。「わかる」から「できる」ようになるには、繰り返し取り組むよりほかにない。本当に頭のいい人と偏差値だけ高い人とは違うんだよと語りかけられました。

高校二年生の夏には、読書や興味を広げる学びをして欲しい。そして情報に踊らされることなく、自分はどうするのかを自分の頭で考える人になっていこうとアドバイスを頂きました。

最後に、「壁」にぶち当たったなら、その先には大きな可能性がある。「壁」は「未来へのドア」だからノブを探そうという応援メッセージに生徒は勇気づけられていました。

三重県工業研究所

松岡敏生氏(26期)

ヒトを科学する「人間工学」というテーマで講演いただきました。

大学を卒業後、就職をすぐにはせずに1年間ワーキングホリデーに行き、また一度働いてから改めて大学院へ進学して博士の学位をとり、国際会議などで出会った人が多くいて人脈が広がった経験などから、これからは理系の人は海外を経験しておくよよい。

人間工学は人の特性にあわせるもので、体の特性だけでなく心理的なものも考えるのだ。フェイフルセーフ(人は間違えるものだ)、フルプルーフ(ユーザーが間違わない設計)という考え方だ。研究では人間の特性を知ること、生体信号(筋電図)を測定して研究している。

快適・安全とは当たり前に見えて特にいいと感じないが人間工学を通じて考えられている。身近なところで意識してみよう。盛りだくさんの話題で後輩たちに語りかけていただきました。



曾根尚次氏

日本旅行株式会社

曾根尚次氏(26期)

B講座は、日本旅行株式会社で営業を担当されている曾根さんのお話でした。

初めに、旅行会社の仕事内容について、ご自身の体験談を交えて教えていただき、さらに、曾根さんの仕事への思いやこだわりなども聞くことができました。顧客に満足してもらえるかどうかは非常に重要な旅行会社にとっては、顧客に気持ちや希望を尋ねることが大事だとおっしゃいました。

それから、曾根さんは「1000円の旅行」と「100万円の旅行」のどちらがよいかと生徒に問いかけました。生徒たちは後者を選びましたが、それも顧客や状況によって異なるかと曾根さんはおっしゃいました。例えば、外国から留学生が日本にやってきて、電車というものに初めて乗るといふ旅は、たった1000円ほどの区間でも、印象深く大満足できる旅になるそうです。

「旅行」という関心の強いテーマで、生徒たちは終始楽しそうに聞いていました。

三重県庁

竹内泰介氏(31期)

E講座は、三重県庁で環境保全活動や海洋資源の有効活用に関わる仕事をされている竹内さんのお話でした。

水産系研究者の仕事は、地球規模の生態や環境に関わるグローバルな面と、地域の経済や文化に密着した面があること、公益性の高い重要な仕事であることなど、様々な視点でお話していただきました。また、高校時代や大学時代に感じた事、体験したことや、就職する際に迷ったり悩んだりしたことなどを交えたお話しに、生徒は非常に興味深く聞き入っていました。

特に、これまでの経験からお話しされた「どんな仕事でも、専門知識だけでなく、幅広い知識や、コミュニケーション能力などが必要」や「好きなことを見つけて、それにこだわってみる」、「社会に出たら文系も理系もない。すべての勉強が役に立つ」などは印象的で非常に説得力がありました。生徒にとって、今の学校生活と将来を結びつけて考える良い機会になったのではないのでしょうか。

教育実習

今年も教育実習が行われました。第51期生と第52期生の方々に感想をお聞きしました。

小林顕斗(物理) 51期

少し前までは学生として学ぶために通っていた四日市南高校で、今度は教育実習生としてお世話になりました。当時とは違った目線での南高生活を通して教員としての仕事を間近で経験させていただき、とても良い勉強になりました。初めての授業では実際に授業を進行していくことの難しさを思い知りましたが、先生方のご指導や生徒の皆さんからの指摘や励ましをもらいながら、自分の未熟な部分を知り、そして次の授業へとつなげていくことができました。また、自分で授業を作り実践し、改めて先生方の授業を見学してお話を伺う中で、先生方の授業に込める熱い思いや努力の大きさを実感しました。

2週間という期間はあっという間でしたが、たくさんの方の時間を割くことができました。楽しい時間を共有させてくれた生徒の皆さん、お忙しい中ご指導いただいた先生方の皆さん、そして母校の四日市南高校には感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございます。

ました。

加藤優希(生物) 52期

このたび母校である四日市南高校で授業をさせて頂き、他にもクラスにて様々な貴重な経験をすることができました。授業をつくるための教材研究では苦戦し、どの表現、順番がわかりやすいかを考えました。こうして作成した授業案もすべてその通りに進めることはできず、その場その場で対応することが大切であることを学びました。クラスでは主にHRで関わらせていただきました。授業を持つことはできなかったのですが、体育祭やその練習でクラスの生徒たちの新たな一面を見ることができたのが嬉しかったです。そして実習にあたり指導して下さった先生方、授業を受けてくれた生徒達に感謝するとともに今回の経験を踏まえて努力してゆきます。本当にありがとうございます。

吉田雄哉(国語) 52期

この二週間、朝起きてから夜寝て眠るまでずっと、授業のことや生徒たちのことを考え続けてい

ました。どうしたらもっとわかりやすくなるのだろうか、どのように接したら生徒たちとよい関係を築くことができるのだろうかという試行錯誤の毎日でした。うまくいかないことも多く、何度も自分の未熟さを痛感しました。しかしそのたびに先生方にご指導いただき、いろいろなことを教えていただきました。また生徒たちが勉強や部活に熱心に取り組む姿を見ると、自分も精一杯頑張りたいと励まされました。実習を終えて振り返ってみると、大変ではありましたがとても充実した楽しい二週間だったと思います。

母校での教育実習というとても貴重な経験をさせて頂いていただいたことに心から感謝しています。この経験を生かしてさらに成長していきたいと思えます。ありがとうございます。

後藤花穂(情報) 52期

母校である四日市南高等学校で教育実習をさせて頂いたことは大変嬉しく、ご指導をしてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。また、温かく迎えてくれた優しい生徒たちにも本当に感謝しています。

不安と期待が入り混じる中迎えた教育実習でしたが、2週間はあっという間で、とても充実した時

間でした。私は、たくさんの方の授業を経験させて頂いたとき、HR等でも生徒と接する機会をたくさんいただきました。その中で、生徒に思いを「伝える」ことの難しさを強く感じました。ただ言葉を並べるのではなく、どうすればその意味が伝えられるかということが大きな課題になりました。

この2週間、教員の仕事を教員の立場で学ぶという、本当に貴重な経験をさせて頂きました。この経験で得た知識や課題は必ず、今後の人生に活かしていきたいと思えます。

山内真理香(英語) 52期

不安であり楽しみでもあった四日市南高校での教育実習も終わりを迎えました。3週間という期間がとても短く感じられる程充実した実習でした。教師という立場で高校にいるだけで生徒の時には気づかなかつた点があるのを見えてきました。授業や指導の難しさに頭を悩まし、反省と改善を繰り返して作り上げた授業計画では、改めて教師という仕事の苦労と達成感を感じることができたように

思います。様々な気づきと共に指導して下さった先生方、また生徒から多くのことを学びました。ともに苦労を分かち合った実習生など本当に多くの方々を支えられてこの教育実習を無事終えることができました。ここでの経験を活かし、これからも日々学び続けていきます。本当にありがとうございます。



上段(左から) 吉田雄哉(国語)、杉村公寿茂(化学)、松田優輝(国語)、山内真理香(英語)、加藤優希(生物)
下段(左から) 野村瞳美(保健体育)、久野薫(保健体育)、後藤花穂(情報)、加藤真帆(化学)、小林顕斗(物理)

これから教育実習を希望される予定の皆さんへ

教育実習の申し込み期間は、実習年度の前年の4月10日から5月15日です。その間の平日に、事前に総務部と連絡を取り、本人が直接来校して手続きをしてください。

躍進する部活動



ワンダーフォーゲル部

ワンダーフォーゲル部

3年男子6名、1年男子2名、1年女子3名の計11名が在籍しています。昨年度は夏合宿で南アルプス北岳に、冬のスキーはホワイトピアに行きました。

本年度の県総体では、男子が3位に入賞し、7年ぶりに東海総体に出場することができました。今後も、「楽しく安全に」を心がけ、活動していきたいと思っています。

バレーボール部

男女それぞれ12人の新入部員を迎え、16年度は始まりました。男

子のこの数年は6人以上だった状態が嘘のようです。

5月末の県総体は男女とも1試合目で惜敗しましたが、持てる力は出しました。3年生の引退後新体制で日々練習に励んでいます。

ます。本校1年目の水谷宏樹、2年目（顧問としては1年目）の伊藤明日奈、11年目の廣森智が顧問です。

インターアクト部

インターアクト部は、現在9名の部員で「人のため、世のためになる社会貢献活動」をスローガンに校内外のボランティア活動を行っています。昨年度は、「四日市まちづくり」イベントにも参加しました。

それ以外に毎年、「日永つんつく祭り」や地域の防災活動、西日

野駅への花プランター設置、街頭募金活動、献血啓発活動、四日市あすなろう鉄道を応援する取り組みや交換留学生との交流会を行っています。このような活動を通して、人間性や社会性を磨いています。少ない部員ですが、これからも積極的に社会貢献活動に参画し、自己実現と共に社会のお役に立てればと思っています。

家庭部

家庭部は、6名の新入部員を迎え、計32名でスタートしました。4月にはホワイトチョコのマーブルブラウニー、5月には中間審査最終日に、カルボナーラスパゲツティ、オレンジゼリーを作りました。

昨年の南高祭では、タコライスとコーヒージェリーを販売し好評でした。活動は月1回程度ですが、みんなで楽しく活動しています。

電算無線部

電算無線部は、今年度、3年生3名、2年生7名、1年生6名の計16名で活動しています。毎週水曜日に情報室に集まり、それぞれ個人やグループでFlashを使ったアニメーション制作や映像編集、プログラミングなどに取り組んでいます。

年度の終わりには作品を発表できるように頑張つて活動していきたいと思っています。

陸上競技部

今年も多くの新入生が入部し、現在は男女合わせて約35名の部員で活動しています。

5月末に開催された県高校総体では生徒たちがよく頑張りました。男子400mが3位、男子200mが7位、女子5000m競歩が6位に入賞し、男子400mにおいては東海大会出場を果たしました。他の部員も最後まであきらめずに粘り強く競技し、好記録を出してくれました。

3年生のほとんどは引退しましたが、1・2年生がそれぞれの目標に向かって意欲的に活動しています。今後は、秋の新人大会や駅伝大会において一人でも多くの部員が自己記録を更新し、東海大会出場を果たせるよう精進していきたいと思っています。

イラスト部

イラスト部は、現在、12名の部員で活動しています。活動内容としては、年間2回、9月と1月に部誌（イラスト原画集）を発行しています。

また、2月には、3年生の卒業記念に手作りのイラスト集を作っ

ています。さらに、3月には新入生歓迎会用のカラーイラスト集を作る予定です。

バドミントン部

初心者でも楽しむことのできるバドミントンですが、やり始めると奥が深く、知れば知るほど魅力的なスポーツです。練習は、風の影響を受けぬように体育館を閉め切り、灼熱の中、基礎体力や技術の向上に努めています。

大会で結果を出せるように頑張っておりますので、ご支援よろしくお願いいたします。

演劇部

今年度は13名の新入部員を迎え、2年生と併せて27名で活動を開始しました。

5月恒例のミニ劇では、2年生の指導により新入部員の隠れた持ち味を引き出すことに成功しました。このミニ劇には、引退した3年生やOBの皆さんも参加され、駄目出しなどでご指導くださいました。

今後とも演劇部の活動のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ハンドボール部

現在部員は、男子1年生5名、2年生9名、3年生3名の17名、女子は1年生6名、2年生10名、

3年生14名の30名、計47名で活動をしていきます。限られた時間と場所ので効率よく質の高い練習をきびきびと行い、なおかつ元気よく声を出し楽しんでプレーすることを心がけています。

今年度の高校総体は男子は2回戦敗退でしたが女子は5位入賞という結果を残せました。

新チームは男女とも上位入賞を目標にひたむきに努力し続けたいと思います。ご支援よろしくお願ひいたします。

音楽部

9名のかわいい新入生を迎え、部員数は一気に2倍！プレハプハウスは毎日賑やかで明るい歌声に満ちています。

今年度は練習日も増やしました。技術向上、美しいハーモニーを目指し、2年振りに夏のコンクールに参加します。合唱祭、発声講習会、第九、アンコンと、今年も意欲的に活動します。

剣道部

現在剣道部は3年生2人、2年生1人、1年生3人で、男子も1年生に1人入部しました。普段は週に2日ほど武道場で練習していきます。大会が近づくと練習日を増やして大会に備えています。

先日春季大会には2年生と1

年生が出場して、団体戦で1回戦は川越高校に勝利して2回戦に進出しました。2回戦は強豪三重高校相手に敗退しましたが、今後の励みにして次の大会目指して練習しています。

硬式テニス部

今年度の高校総体・団体戦は、男子は3回戦敗退、女子は1回戦敗退という、残念な結果となりました。

新たに1年生が21名加わり、心機一転 男女とも次の試合に向けて元気よく動き出しました。少ない練習時間ですが、上位入賞を目標にさらに努力を続けていきたいと思ひます。ご支援よろしくお願ひいたします。

吹奏楽部

3月28日に開催させていただきました第28回定期演奏会には、約1200人のお客様においでいただきました。多くの先輩方の協力により、無事終了することができました。ありがとうございます。

本年度、34名の新入部員を迎え、部員一同、コンクールやコンテストでベストを尽くし、豊かな音楽を奏でたいと思ひます。ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

なお、平成29年3月30日(木)

水泳部

本校のプールが使用できないため、部員は各自スイミングスクール等で県大会に向けて、練習していきます。

今年度は新たに5名の1年生新入部員(男子1名、女子4名)を迎え、選手9名でスタートしました。現在、個人種目と女子のリレーで東海大会へ出場できるように頑張っておりますので、ご支援よろしくお願ひいたします。

茶道部

今年度は1年10名、2年12名、3年4名の計26名で活動しています。毎週水曜日の放課後、作法室で講師の羽木千松先生に表千家のお点前をご指導いただいております。

毎年南高祭では浴衣姿で立礼棚を用いた茶席を設け、おもてなしをしています。普段は作法室の畳席でお稽古していますが、正座の苦手な方でも気軽に一服していただけるよう椅子席にしております。部員たちの日頃の成果を是非見に来てください。

美術部

私たち美術部は、全学年あわせて16名で毎日活動しています。今年も例年通り、絵描きの町・大王町にて、3日間集中して作品制作をします。

南高祭では四日市文化会館にて、日頃制作している作品や合宿での作品を展示します。また、みえ高文祭や北勢展など、今後控えている展覧会に向けて、各自制作に頑張っている毎日です。

文芸部

部員数は6名です。校外では、県内の文芸部員が集まる活動で講演会を聞いたり、創作学習会に参加したりしています。他校との交流もさかんです。

校内では、ビブリオバトルを行ったり、部誌作成をしたりしています。自分たちで活動内容を考え、主体的に活動しています。今年度も南高祭では部誌を配布、展示予定です。

放送映画部

今年度は、新しいメンバーを加え、2年生6名で活動しています。主な活動内容は、体育祭(6月)での実況放送や文化祭(9月)での作品展示、中学生学校見学会(11月)で上映する南高紹介映像の作成などです。

パソコンを使って静止画や動画を編集するなど、いろいろな技術

野球部

現在部員は、1年生22名、2年生20名、3年生18名、計60名です。文武両道の南高精神に則り、勉強と部活動の両立を基本とし、限られた時間の中で質の高い練習を心がけています。

仲間との残り少ない時間を大切に、一日でも長い夏を目指して頑張ります。

箏曲部

3年生11名、2年生13名、1年生14名の計38名で、生田流正派大師範の森雅笙先生の熱心な指導の下、週に三回練習しています。

昨年度夏に行われた「三重県高等学校日本音楽演奏会」において優勝し、今年7月30日から行われる第40回全国高等学校総合文化祭広島大会に出場します。

今年度は、8月6日(土)に白山総合文化センター(しらさぎホール)で県大会が行われます。五連覇を目指して練習に励んでおります。大勢での合奏は息を合わせるのが大変ですが、日頃の練習の成果が発揮できるよう、頑張ってください。応援のほどよろしくお願ひいたします。

ご注意ください

同窓会名鑑を作成するという名目で、調査ハガキが多くの同窓会員に郵送されております。往復ハガキ等で高額な名簿の購入を勧める等の手口です。これらは南高校同窓会とは一切関係はありません。正規の同窓会名簿は13年度に発行済みです。

進路状況

本年度の卒業生数は、8クラス（内、数理コース2クラス）の合計316名でした。進学者数は290名で、全体の91.8%が進学しました。その他は進学待機26名です。数理コースは卒業生の58.0%が国立大学に、33.3%が私立大学に進学しています。学年全体の国立大進学者の41.2%が数理コースで占められています。

現役生の国立大学延べ受験者数は313名、合格者数は125名、入学者数は114名です。合格率は39.9%（入学率は91.2%）で、国立4年制大学の現役生と過年度生の合計合格者数は134名でした。

今年度卒業生の主な国立大学合格校は、難関大では大阪大（1）、名古屋大（7）、神戸大（1）。ついで、横浜国大（3）、東京農工大（1）、金沢大（1）、名古屋工業大（11）、京都教育（1）、愛知教育（3）、三重大（34）、信州大（3）、静岡大（6）となっています。また、主な公立大学合格校は名古屋市立大（6）、京都府立大（1）、大阪府立大（1）、愛知県立大（3）、三重県立看護大（6）、でした。

今年度卒業生の主な私立大学合格校は、難関大では大阪大（1）、名古屋大（7）、神戸大（1）。ついで、横浜国大（3）、東京農工大（1）、金沢大（1）、名古屋工業大（11）、京都教育（1）、愛知教育（3）、三重大（34）、信州大（3）、静岡大（6）となっています。また、主な公立大学合格校は名古屋市立大（6）、京都府立大（1）、大阪府立大（1）、愛知県立大（3）、三重県立看護大（6）、でした。

多く、例年のことながら本校の大きな特徴となっています。次いで、「文学・言語・国際・文化」が14%、「教育」が13%となります。少子化の影響を受けて志願者が減少傾向にある「教育」で志願者が多いのも、本校の大きな特徴と言えるでしょう。さらに、「経済・経営・商学」8%、「政策・政治・法律」7%、と文系学部が続きま

す。全国的には、理高文低から文高理低へシフトして2年目となりますが、本校では従来より文系学部への人気が根強く、今年もその傾向が見られました。次いで「農林畜産・生物・生命・環境」64%、「理学」7.0%となっています。

私立大学に比べて国立大学は、工学部を多く持ち、文系学部においても教育、就職環境に優れているため、多くの生徒が全国を視野に入れて出願を行っています。今年度は昨年の数学、理科に続いて、英語、国語、地歴・公民が新課程に移りましたが、センターテストの出題傾向に大きな変化は見られず、センター受験者、国立出願者の数も昨年並みとなりました。そんな中本校生徒は、全国的視野を持ち前期日程から幅広く志望校

2016年度入試 大学等合格者数 (過年度生含む)

大学名	合格
山形	2
東京農工	1
横浜国立	3
富山	5
金沢	1
福井	2
山梨	3
信州	3
岐阜	1
静岡	8
愛知教育	3
名古屋	7
名古屋工業	11
三重	36
京都教育	1
大阪	1
大阪教育	1
神戸	1
奈良教育	1
鳥根	1
山口	1
香川	1
愛媛	1
佐賀	1
鹿児島	2

大学名	合格
国立大学計	98
高崎経済	2
前橋工科大	1
群馬県立県民健康科学	1
富山県立	3
福井県立	3
都留文科	1
静岡文化芸術	2
愛知県立	3
愛知県立芸術	1
名古屋市立	6
三重県立看護	6
滋賀県立	1
京都府立	1
大阪府立	1
兵庫県立	1
県立広島	1
下関市立	1
長崎県立	1
公立大学計	36
獨協	3
東京情報	1
青山学院	2
北里	2
国立音楽	1

大学名	合格
工学院	2
駒澤	1
実践女子	1
成蹊	1
成城	1
中央	1
東海	6
東京農業	2
東京理科	8
東京都市	1
東洋	4
日本	2
法政	7
明治	1
立教	2
早稲田	2
東京工芸	1
麻布	1
神奈川	1
金沢工業	1
岐阜聖徳学園	4
常葉	4
修文	2
名古屋学芸	1
愛知	36

大学名	合格
愛知学院	19
愛知医科	1
愛知工業	26
愛知淑徳	34
金城学院	8
椋山女学園	24
大同	31
中京	124
至学館	2
中部	52
同朋	1
豊田工業	2
名古屋音楽	1
名古屋外国語	28
名古屋学院	7
名古屋芸術	2
名古屋商科	1
名古屋女子	20
名古屋造形	1
藤田保健衛生	15
南山	48
日本福祉	3
名城	105
東海学園	2
桜花学園	7

大学名	合格
名古屋文理	2
愛知工科大	13
皇学館	1
鈴鹿医療科学	12
四日市看護医療	13
長浜バイオ	22
大谷	1
京都外国語	2
京都産業	9
京都学園	1
京都橘	1
同志社	21
同志社女子	1
立命館	60
龍谷	6
大阪学院	1
関西	12
関西外国語	1
近畿	15
摂南	3
桃山学院	2
大和	1
関西学院	6
甲南	4
神戸学院	5

大学名	合格
神戸芸術工科大	1
神戸女学院	3
帝塚山	1
岡山理科	3
熊本学園	1
私立大学計	890
水産大学校	1
大学校計	1
三重短大	3
青山学院女子短大	1
大垣女子短大	1
名古屋短大	3
名古屋女子短大	1
大阪成蹊短大	1
短期大学計	10
日本聴能言語福祉学院	1
ユマニテク調理製菓専門学校	1
文化服装学院	1
中日美容専門学校	1
東京ビューティースクール	1
名古屋美容専門学校	1
名古屋デザイナー学院	1
専門学校計	7

先生お元気ですか？

長年本校に勤務され、退職または転勤された先生方にアンケート形式の質問に答えていただきました。

谷 淳司 先生

南高校を転勤されて何年ですか？

南高校は新採2校目で、平成10年から9年間、南高校で勤務しました。もう南高校を転勤して、10年程が経ちました。

現在のお勤め先(お仕事)についてお聞かせください。

現在は、4校目の川越高等学校で4年目になります。学年担任を一巡して、今は1年生の担任をしています。川越高校も南高校と同様、勉強と部活動に一生懸命で、真面目な生徒がたくさんいます。人懐っこく、放課後には質問の生徒がたくさん訪れます。職員室の私の隣には、浦田先生が座ってみえて、一緒に数学を教えてください。部活動は、テニス部の顧問をしています。成績は残せていませんが、環境面はかなり良く、町営のオムニコート借りて、実践練習をたくさんさせてもらっています。

近況をお聞かせください。

子供の影響で、読書の習慣がつき、今では、図書館通いに勤しんでいます。もちろん、テニスは趣味で昔の仲間と汗を流し、時には、

試合にも参加し、教え子と対戦することもあります。

南高校時代の印象に残っていることは何ですか？

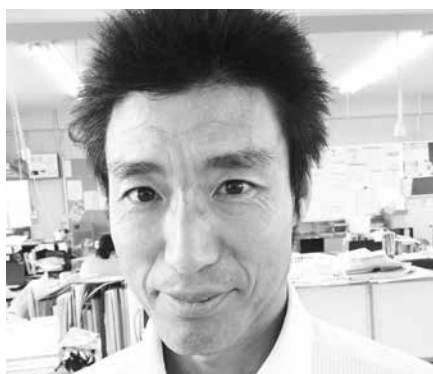
9年間での一番の思い出は、部活動で長崎インターハイ(個人の部)、福岡選抜大会(団体の部)と全国大会に2度出場できたことです。さらに、天下無敵の四日市工業高校に県大会の団体戦で勝利できたことも忘れられない思い出です。その勝利は、私が抱いていた野望そのものでした。達成できた時期のメンバー諸君には本当に感謝しています。当時は部活動に、熱を入れすぎて、無茶な指導で迷惑をかけていたと思います。今では、教え子が川越の練習に参加してくれて、当時の思い出を懐かしんでいます。また、中学校の教員になった教え子がいて、部活指導を頑張っていると聞き、負けられないと思う毎日です。

当時の教科指導面では、力量不足でいい加減な指導しかできず、今でも反省しています。若気の至りとはいいますが、私が指導した生徒諸君、本当にすいませんでした。

南高校及び南高生、同窓会生にご助言、メッセージをお願いします。

川越の進路講演会で、これからのキャリアは、どこで、どう取り組み(姿勢)、何を得たかで評価される。したがって、自分の未来のために、今の自分をより良く変え続けていくことが、キャリアである。と中京大の先生が説明されていました。取り組む姿勢に磨きをかけ、昨日より今日、今日より明日と、ちよつとずつ進化した自分を追い求めて、行動を起こそうと思えました。今からできる小さなことをコツコツ積み重ねること、その習慣が自分の糧となると信じてやってみます。

川越高校から見る南高校は、偉大な存在です。ライバル校として、お互い切磋琢磨できる関係を保ち続けたいです。南高校の益々の発展、皆様のご活躍をお祈りしています。



平成28年度 南高全体同窓会



タンゴピアニスト 矢田麻子 (32期生)

【日時】平成28年8月13日(土)

午後3時より

【会場】四日市都ホテル 3F 朝明の間

■今年度の幹事は25期生が務めます。

現在タンゴピアニストとして活躍されている、卒業生の矢田麻子さんの演奏もお聴き頂けます。

懐かしい先生方にもゲストとして参加して頂く予定です。奮ってご参加下さい。

■第一部 総会

■第二部 懇親会

(会費 社会人2,000円、学生無料)

【第25期生同窓会】

日時：平成28年8月13日(土) 18時~20時半

会場：ロワレ21四日市(四日市市川原町18-8) TEL.059-333-1111

第8回 四日市南高校東京同窓会

【日時】平成28年10月8日(土)

【会場】アイビーホール青学会館(表参道)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷4丁目4番25号

TEL.03-3409-8181

■16時30分受付

■17時開始

■会費6,000円(学割3,000円)

■関東圏にお住まい、関東圏で仕事する、南高OB、OGの集いです。毎年、学年を越えて、南高の想い出を語り合っています。本当に楽しいひとときを過ごしていますので、ぜひ参加下さい。

【お申込み方法】

四日市南高校同窓会HP、第8回四日市南高校東京同窓会の参加申し込みフォーマットよりお申し込みください。

【問い合わせ先】

四日市南高校同窓会理事14期生 山路みのる までお願いします。TEL.090-3255-2644

同窓会役員名簿

【同窓会役員】

会長	早野憲一郎	(6期)
副会長	川島茂樹	(7期)
	山路 熟	(14期)
書記	大日方敏之	(15期)
	水谷正美	(23期)
会計	小柳秀樹	(20期)
	川村公博	(25期)
監事	浦田 治	(19期)
	石原正敬	(29期)
理事	矢田 智	(5期)

【学校側】

顧問	鈴木達哉	学校長
特別会員	伊藤明日奈	教諭
	稲垣良二	〃
	川崎千佳子	〃
	小林 仁	〃
	鈴木正司	〃
	西 綾	〃
	服部圭一	〃
	廣田育男	〃
	藤端千絵	〃
	藤波 厚	〃
	村野玉紀	〃

【連絡先】

〒510-8562 四日市市大字日永宇岡山4917
三重県立四日市南高等学校同窓会事務局
TEL.059-345-3177・3178 FAX.059-345-9549
http://www.4nan.jp/dousou/ E-mail ds@4nan.jp

第4回 四日市南高校同窓会ゴルフ大会のご案内

【日時】平成28年10月18日(火)

【場所】三重カントリー倶楽部 三重郡菟野町千草7190番地

※詳細は四日市南高校同窓会ホームページに掲載します。

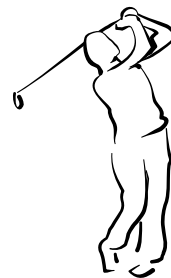
【お申し込み方法】

四日市南高校同窓会HPより第4回ゴルフ大会の申込み用紙(PDF)をプリントアウトし、FAX(059-359-3021)でお申し込みください。

同学年3名そろえば、学年対抗戦にも参加できます。

【お問い合わせ先】

四日市南高校同窓会理事14期生 山路みのる までお願いします。TEL.090-3255-2644



事務	養護	情報	英語	理科	数学	社会	国語	教頭	【転入】	事務	養護	情報	英語	理科	数学	教頭	【転出】	理科学	社会	英語	国語	【退職】	
桜井	岡野	西畑	西塚	渡谷	数内	奈本	中村	藤端	小林	諸戸	山本	今谷	萩原	吉川	岡野	横井	西村	菊池	伊藤	林	岡野	城野	菊間
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本	村	端	林	戸	本	谷	原	川	野	井	村	池	藤	芳	野	野	由
博	明	雅	百	谷	内	本																	